

[選択教育課程]

第2 外国語一般科目

一ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、スペイン語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、
日本語Ⅰ・Ⅱ、ロシア語Ⅰ・Ⅱ、アラビア語Ⅰ・Ⅱ、ベトナム語Ⅰ・Ⅱ一

1. 追求する人間像

わが国の教育は弘益人間の理念の下、全ての国民をして、人格を陶冶し、自主的な生活能力と民主市民として必要な資質を備えしめ、人間らしい生を営ませしめ、民主国家の発展と人類共栄の理想を実現するのに寄与せしめることを目的としている。

このような教育理念を土台として、この教育課程が追求する人間像は以下のとおりである。

- ア. 全人的成長の基盤の上に、個性の発達と進路を開拓する人間
- イ. 基礎能力の土台の上に、新たな発想と挑戦で創意性を発揮する人間
- ウ. 文化的素養と多元的価値に対する理解を土台に、品格ある生を営む人間
- エ. 世界と相通じる市民として、配慮と分かち合いの精神で共同体の発展に参加する人間

2. 高等学校の教育目標

高等学校の教育は、中学校教育の成果を土台に、生徒の適性と素質に合う進路開拓能力と、世界市民としての資質涵養に重点を置く。

- (1) 成熟した自我意識を土台に、多様な分野の知識と技能を身につけて進路を開拓し、生涯学習の基本力量と態度を備える。
- (2) 学習と生活において新たな理解と価値を創出することができる批判的、創意的思考力と態度を身につける。
- (3) 韓国の文化を享有し、多様な文化と価値を受容できる資質と態度を備える。
- (4) 国家共同体の発展のために努力し、世界市民としての資質と態度を育てる。

3. 内容の体系

領域		内容	
達成基準	言語的 内容	言語技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞く、話す、読む、書く活動をバランスよく展開することができるよう、各領域別の内容を提示
		言語材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発音および綴り（文字）：各言語別の標準発音および綴り（文字）の学習 ・ 語彙：【別表 II】の基本語彙表中心 <ul style="list-style-type: none"> —各言語別の学習単語数 <ul style="list-style-type: none"> ・ ドイツ語 I：500 語程度 ・ ドイツ語 II：800 語程度 ・ フランス語 I：500 語程度 ・ フランス語 II：800 語程度 ・ スペイン語 I：500 語程度 ・ スペイン語 II：800 語程度 ・ 中国語 I：400 語程度 ・ 中国語 II：800 語程度 ・ 日本語 I：500 語程度 ・ 日本語 II：800 語程度 ・ ロシア語 I：400 語程度 ・ ロシア語 II：800 語程度 ・ アラビア語 I：400 語程度 ・ アラビア語 II：800 語程度 ・ ベトナム語 I：400 語程度 ・ ベトナム語 II：800 語程度 ・ 文法：【別表 I】の意思疎通基本表現参照 <ul style="list-style-type: none"> —定められた文法事項遵守 ・ 意思疎通基本表現：高等学校レベルに適切な基本表現
	文化的 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標とする言語圏国家の日常生活文化と関連した内容 ・ 目標とする外国語言語圏の言語文化に関連した内容 ・ 目標とする言語圏国家の社会文化的な内容 	

9. 日本語 I

1. 目標

国際社会は世界化の進展にともない、隣接国家間の地域協力体制構築が速やかに拡散しつつある。こうした動きは地域内国家間の共生・共栄のための政治的、経済的協力だけでなく、民間レベルでの多様な協力と交流につながる事となる。こうした時代の流れにともない、韓国と日本の間の協力と交流はさらに拡大され、深められるであろう。しかし日韓両国は政治、経済、社会、文化など諸領域にわたって、相互理解の不足により解決しなければならない課題が少なくない。このような諸問題を円満に解決し、文化の異質性から来る諸般の誤解を解消して、東アジア地域の平和と繁栄に寄与するためには、文化間の相互理解と円滑なコミュニケーション能力が要求される。

「日本語 I」はこのような時代的要求に従い、日韓交流に能動的に対処できる人材を養成するために開設された基礎科目である。従って外国語教育の実用的目標と文化的目標、教育的目標を均等に達成するため、日常生活と関連した易しい日本語を理解し、表現できる基礎的なコミュニケーション能力を育て、文化の相互理解と国際交流に積極的に参加する態度を育てるために、次のような一般目標を持つ。

第一に、日常生活で用いられる意思疎通基本表現の基礎的な能力を習得する。

第二に、意思疎通基本表現と、場面に応じた言語行動文化を理解し、相互行為ⁱⁱⁱを重視する日本語学習と、文化間の相互理解力を育てる。

第三に、情報活用の重要性を認識し、必要な情報を日本語で検索することができる基礎的な能力を育てる。

第四に、日本語学習を通して日本の文化を理解すると同時に、韓国韓国の文化を日本に紹介する役割も遂行できる基礎的な能力を育てる。

第五に、周りにある日本語と関連した学習リソースを自ら活用し学習できる習慣を育て、自律性と問題解決能力を伸長させる。

「日本語 I」の具体的な目標は次のとおりである。

ア. 言語技能

言語の 4 技能を有機的に連携し、状況に応じて相互行為が可能となるようにする。

(1) 聞く

(ア) 日本語の発音を聞き、正確に区別することができる。

(イ) 日常生活に関する短く易しいことばを聞き、理解する。

(ウ) 日常生活に関する短く易しいことばを聞き、状況に合うように行動することができる。

(2) 話す

(ア) 日本語の発音を正確に区別して話すことができる。

(イ) 意思疎通基本表現を中心に、短く易しいことばを話すことができる。

(ウ) 使用頻度が高い意思疎通基本表現を、状況に応じ、言語行動文化に合わせて、適切に話すことができる。

(3) 読む

(ア) ひらがなとかたかなを正しく読むことができる。

(イ) 基本語彙に用いられた学習用漢字と表記用漢字を、文の中で読むことができる。

(ウ) 日常生活と関連した短く易しい文章を読み、理解する。

(エ) 日本の文化と関連した短く易しい文章を読み、理解する。

(4) 書く

(ア) ひらがなとかたかなを、正しい書き順で書くことができる。

(イ) 基本語彙に用いられた学習用漢字を書くことができる。

(ウ) 日常生活と関連した短く易しい文を書くことができる。

(エ) かな漢字かな交じりの短く易しい文を、コンピュータで入力することができる。

イ. 文化

(1) 日本人の基本的な言語行動文化を理解する。

(2) 日本人の基本的な日常生活文化を理解する。

(3) 日本の重要な伝統文化と大衆文化を理解する。

(4) 日韓両国の文化の共通点と相違点を理解し、文化の多様性を認識する。

ウ. 態度

(1) 意思疎通基本表現を学ぶことの重要性を知り、体験を通じて自ら学習する態度を持つ。

(2) 意思疎通基本表現の遂行を成功させるため、相互理解の重要性を知り、自ら学習する態度を持つ。

(3) 日本の文化に対する理解の必要性を知り、文化に関連した学習資料に関心を持って自ら学習する態度を持つ。

- (4) 日韓の文化交流の必要性を知り、積極的に交流しようとする態度を持つ。
- (5) 情報検索の必要性を知り、多様なメディアを活用する態度を持つ。
- (6) 日本語に関連した学習リソース活用の必要性を知り、自ら活用する態度を持つ。

2. 達成基準

ア. 言語的内容

(1) 言語技能

【別表 I】「意思疎通基本表現」を全般的に扱うが、言語の 4 技能を有機的に連係し、状況に応じて相互行為が可能となるよう、適切に用いる。

(ア) 聞く

- ①簡単な教室用の日本語を聞き、指示に従って行動することができる。
 - ―「よく聞いてください、(あとについて) 行ってください、よんでください、かいてください、てをあげてください、わかりましたか」など、教室で頻繁に用いられる指示語を聞いて理解し、それに合うように答えたり行動したりする。
- ②あいさつや紹介の表現と関連した短く易しい対話を聞き、これに適切に反応することができる。
 - ―時刻や状況に応じた出合いや別れの基本的なあいさつ表現を聞き、これに適切に反応する。
 - ―安否、外出、訪問、お祝いなど多様な状況における簡単なあいさつ表現を聞き、これに適切に反応する。
 - ―自己紹介、他人の紹介、家族の紹介時の儀礼的な表現のうち、基本的な表現を理解する。
- ③配慮および態度伝達の表現と関連した短く易しい対話を聞き、これに適切に反応する。
 - ―感謝や謝罪、ほめや慰めなどの基本的な表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いた時適切に反応する。
 - ―承諾や拒絶、断りや遺憾などの基本的な表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いて対話者の意図を理解し、適切に反応する。
- ④意向伝達の表現と関連した短く易しい対話を聞き、これに適切に反応する。
 - ―希望や意志、意見の提示などの基本的な表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いた時、対話者の意図を理解し、適切に反応する。
- ⑤情報要求や情報提供の表現と関連した短く易しい対話を聞き、これに適切に反応する。

- ― 場所や選択、状態や事情などに関する簡単な情報要求を聞き、これに適切に反応する。
- ― 目的や趣向、能力や経験などに関する簡単な情報要求を聞き、これに適切に反応する。
- ― 案内や推測、伝言や状況説明などに関する簡単な情報提供を聞き、理解する。
- ⑥ 行為要求の表現と関連した短く易しい対話を聞き、これに適切に反応する。
 - ― 依頼や勧誘、指示や禁止などに関する基本的な表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いて対話者の意図を理解し、適切に反応する。
 - ― 助言や提案、許可の要求や警告などに関する基本的な表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いて対話者の意図を理解し、適切に反応する。
- ⑦ 対話進行の表現と関連した短く易しい対話を聞き、これに適切に反応する。
 - ― 対話の進行において相手への声かけ、話題の転換などの基本的な表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いて適切に反応する。
 - ― あいづちや聞き返しなどの基本的な表現を聞き、適切に反応する。
- ⑧ 対話の相手の地位や親密度に応じた表現の違いを聞き、理解する。
 - ― 対話の相手の上下関係、親疎関係などに応じた表現の違いを聞き、理解する。

(イ) 話す

- ① 簡単な教室用の日本語を用い、自分の意思を表現する。
 - ― 「(もういちど) 教えてください、わかりました、よくわかりません」 など
- ② 非言語行動を、状況に合うように用いる。
 - ― 表情や手ぶり、身ぶりなどの非言語行動を、状況に合うように用いる。
- ③ あいさつや紹介の表現と関連した短く易しい対話をする。
 - ― 時刻や状況に応じた出会いや別れの基本的なあいさつ表現を、対話の相手に合うように話す。
 - ― 安否、外出、訪問、お祝いなど、様々な状況における簡単なあいさつ表現を、対話の相手に合うように話す。
 - ― 自己紹介、他人の紹介、家族の紹介時の儀礼的な表現のうち、基本的な表現を対話の相手が理解できるように話す。
- ④ 配慮および態度伝達の表現と関連した、短く易しい対話をする。
 - ― 感謝や謝罪、ほめや慰めなどの基本的な表現が用いられる状況を認知し、このような表現を対話の相手が理解できるように話す。
 - ― 承諾や拒絶、断りや遺憾などの基本的な表現が用いられる状況を認知し、このような表現を対話の相手が理解できるように話す。
- ⑤ 意向伝達の表現と関連した、短く易しい対話をする。
 - ― 希望や意志、意見の提示などの基本的な表現が用いられる状況を認知し、こ

のような表現を対話の相手が理解できるように話す。

⑥情報要求や情報提供の表現と関連した、短く易しい対話をする。

―場所や選択、状態や事情などに関する簡単な情報要求の表現を、対話の相手が理解できるように話す。

―目的や趣向、能力や経験などに関する簡単な情報要求の表現を、対話の相手が理解できるように話す。

―案内や推測、伝言や状況説明などに関する簡単な情報提供の表現を、対話の相手が理解できるように話す。

⑦行為要求の表現と関連した短く易しい対話をする。

―依頼や勧誘、指示や禁止などに関する基本的な表現が用いられる状況を認知し、このような表現を対話の相手が理解できるように話す。

―助言や提案、許可の要求や警告などに関する基本的な表現が用いられる状況を認知し、このような表現を対話の相手が理解できるように話す。

⑧対話進行の表現と関連した、短く易しい対話をする。

―対話の進行において相手への声かけ、話題の転換などの基本的な表現が用いられる状況を認知し、このような表現を対話の相手が理解できるように話す。

―あいづちや聞き返しなどの基本的な表現を、対話の相手が理解できるように話す。

⑨対話の相手の地位や親密度に応じた表現の違いを知り、対話の相手が理解できるように話す。

―対話の相手の上下関係、親疎関係などに応じた表現の違いを認知し、対話の相手が理解できるように適切に話す。

(ウ) 読む

①意思疎通基本表現と関連した短く易しい文を読み、理解する。

―コミュニケーション機能が含まれた文のうち、「どうも、こんにちは、すみません」などのような短く易しい文を読み、その意味を理解する。

②意思疎通基本表現と関連した、短く易しい文章や対話文を読み、意味を把握する。

―コミュニケーション機能が含まれた易しい文章や対話文を読み、そのテーマと意味を把握する。

③日常生活で接することのできる多様な学習リソースを活用して、短く易しい文章を読み、理解する。

―招待状、メモ、ハガキ、標識、メニュー、案内文、電子メールなど、多様な学習リソースを活用して、短く易しい文章を読み、理解する。

④インターネットの短く易しい文章を探して読み、情報を把握する。

—インターネットで、短く意味が明確な文章を読み、求める情報を見つける。

⑤日本文化と関連した、短く易しい文章を読み、理解する。

—「文化的内容」と関連した、短く意味が明確な文章を読み、その内容を理解する。

(エ) 書く

①ひらがなとかたかな、学習用漢字を正しく書く。

—日本の文字であるかなと学習用漢字を、書き順に留意して正しく書く。

—韓国で用いる漢字と日本で用いる漢字を区別して正しく書く。

②意思疎通基本表現と関連した短く易しい文を、状況に合うように書く。

—コミュニケーション機能が含まれた文のうち、「はじめまして、お先にどうぞ、それはちょっと」などのような短く易しい文を、状況に合うように正しく書く。

③日常生活でよく接する易しい文章を書く。

—メモ、ハガキ、手紙、案内文、日記など、日常生活でよく接する易しい文章を作成する。

④かな漢字かな交じりの短く易しい日本語を、コンピュータに入力する。

—日本語のコンピュータ入力方法に従い、かな漢字かな交じりの短く易しい日本語を、コンピュータに入力する。

⑤短く易しい電子メールを作成する。

—インターネットや電子通信機器で、短く易しいメッセージや電子メールなどを作成する。

⑥意思疎通基本表現と関連した短く易しい日本語を韓国語に、韓国語を日本語に正しく翻訳する。

(2) 言語材料

(ア) 発音および文字

①発音は、現代日本語の標準語（共通語）の発音を基本とする。

②用いる文字は、ひらがなとかたかな、漢字を基本とする。

③かなの表記は「現代かな遣い」に従う。

④漢字は常用漢字内で用いることができ、書くことを勧める学習用漢字と読むことを勧める表記用漢字は「基本語彙表」に提示した漢字とする。ただし、人名や地名などの固有名詞に用いる漢字は、例外として扱う。

⑤韓国語のかな表記は、「国語(韓国語)のかな文字表記法」に従う。ただし、慣用的に用いるものは許容することができる。

(イ) 語彙

【別表 II】に示された基本語彙を中心に、500 語程度を用いる。

(ウ) 文法

①【別表 II】に示された「基本語彙表」と、【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」に用いられた文法事項を参考とする。

②日本語教育において用いられる現代日本語文法に従う。

(エ) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は、コミュニケーション能力を効率的に養えるようにするものであるが、【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」を積極的に活用する。

①あいさつ：出会い、別れ、安否、外出、帰宅、訪問、食事、年末、新年、お祝い

②紹介：自己紹介、家族の紹介、他人の紹介

③配慮および態度の伝達：感謝、謝罪、ほめ、苦衷・不満、激励、慰め、承諾・同意、拒絶・反対、断り、謙遜、遺憾

④意向の伝達：希望、意志、意見の提示

⑤情報の要求：存在、場所、時間・とき、選択、比較、理由、方法、状態、状況・事情、目的、趣向、能力・可能、経験、確認

⑥情報の提供：案内、推測、伝言、状況説明

⑦行為の要求：依頼、指示、禁止、勧誘、助言・提案、許可の要求、警告

⑧対話の進行：声かけ、ためらい、話題転換、あいづち、聞き返し

イ. 文化的内容

(1) コミュニケーション機能と関連した、日本人の言語行動文化および非言語行動文化を理解し、基本的なコミュニケーションの状況において文化的内容に合うように表現する。以下に示した内容は、選択的に扱うことができる。

(ア) 言語行動に関する内容：表現的特性、あいづちなど

(イ) 非言語行動に関する内容：手ぶり、身ぶりなど

(2) 日本人の日常生活文化を理解し、基本的なコミュニケーションの状況において文化的内容に合うように表現する。以下に示した内容は、選択的に扱うことができる。

(ア) 家庭生活に関する内容：あいさつ、訪問時のマナー、家庭内の生活文化など

(イ) 学校生活に関する内容：サークル活動など

(ウ) 社会生活に関する内容：貨幣、プレゼントなど

(エ) 交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情など

- (オ) 服飾文化に関する内容：衣服の種類など
- (カ) 食文化に関する内容：食べ物の種類、食事時のマナーなど
- (キ) 居住文化に関する内容：住宅事情など
- (ク) 環境に関する内容：自然保護など
- (ケ) 余暇の利用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- (コ) 危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など

(3) 日本人の伝統文化と大衆文化を理解し、基本的なコミュニケーションの状況において文化的内容に合うように表現する。以下に示した内容は、選択的に扱うことができる。

- (ア) 地域文化に関する内容：主な地名、観光名所、庭園など
- (イ) 年中行事に関する内容：「まつり、おしょうがつ、ひなまつり、おぼん、しちごさん」など
- (ウ) 伝統芸術に関する内容：「かぶき、さどう」など
- (エ) 遊びの文化に関する内容：「はなみ、はなび」など
- (オ) 大衆文化に関する内容：マンガ、アニメーションなど
- (カ) 通過儀礼に関する内容：誕生日、入学など

(4) 次の事項に留意して、文化的内容を構成する。

- (ア) 内容は実用的なものとするが、最新の資料を基準として構成する。
- (イ) 学習者の興味、必要性、知的水準などを考慮して、学習意欲を高めることのできる内容とする。
- (ウ) 言語表現と関連した素材の領域は、【別表 I】「意思疎通基本表現」内の項目を参考に、この表現が適切な脈絡の中で活用されるよう構成する。このように、特定の素材領域と関連した適切な表現方式が自然に習得されるようにする。
- (エ) 文化内容を説明する際、必要な場合には韓国語を用いることができる。
- (オ) 日本の日常生活および社会文化を正しく理解し、これを韓国の文化と比較して、共通点および違いを認識するよう、内容を構成する。

3. 教授・学習方法

ア. 一般指針

- (1) 授業はなるべく日本語で進めるようにする。
- (2) 正確さよりは、流暢さを養うことに重点を置いた学習となるようにする。
- (3) 言語の構造を中心とした学習よりは、コミュニケーション機能を習得できるよう、教授・学習の計画を立てる。

- (4) 学習内容の理解と適用が容易となるよう、授業を段階別に構成する。
- (5) 学習者の知的発達を考慮して、螺旋型に学習内容を構成する。
- (6) 学習者が学習活動に積極的に参加できる協同学習と体験学習が成り立つよう、構成する。
- (7) 学習者主導型の自律学習が活性化されるよう、構成する。
- (8) 学習動機を誘発できるよう、学習者の関心と要求を反映した発見学習を活用する。
- (9) 教授・学習に助けとなる多様な情報通信技術（ICT）関連メディアを活用する。
- (10) 学習者のレベルに合うよう、教科書の内容を再構成して用いる。
- (11) 学習者のレベルと個性を考慮した個別学習を活用するようにする。
- (12) 学習者の興味を高めるため、クイズ、ゲーム、歌など多様な学習リソースを活用する。
- (13) 学習意欲を阻害しうる、その場における誤りの修正は避けるようにする。

イ. 言語技能

言語の 4 技能を有機的に連携し、状況に応じて相互行為が可能となるよう、教授・学習する。

- (1) 聞く
 - (ア) 単音や単語よりは、文中心の自然な日本語を聞くようにする。
 - (イ) 聞く学習に助けとなる写真や映像資料などを、効果的に活用する。
 - (ウ) 短く易しい文を聞き、それを行動に移してみせる。
 - (エ) 自然な日本語を身につけられるよう、ネイティブスピーカーの発音を聞かせる。
- (2) 話す
 - (ア) 言語行動文化に合うロールプレイ、場面練習、ゲームなどを活用する。
 - (イ) 学習者の学習参加の機会を増やせるよう構成する。
 - (ウ) グループ活動を中心に、学習者の対話量を増やすようにする。
 - (エ) 相手との関係、対話の状況、言語行動文化に合わせて、実際の状況で適用することのできる言語能力を養えるよう、段階的に指導する。
 - (オ) 自然な日本語を身につけられるよう、ネイティブスピーカーの発音について話させる。
- (3) 読む
 - (ア) 短く易しい日本語を、声に出して読むことができるようにする。
 - (イ) 日常生活でよく接する標識、短く易しい電子メール、カードなど、多様な学習リソースを活用するようにする。

- (ウ) かな漢字かな交じりの短く易しい文を読み、その中心的内容を要約して、発表してみるようにする。
- (エ) インターネットの短く易しい文章を探して読み、情報を把握する。
- (オ) 自然な日本語を身につけられるよう、ネイティブスピーカーの発音について読ませる。

(4) 書く

- (ア) 文字の学習は、字を中心とするよりは単語中心の学習となるようにする。
- (イ) 短く易しい日本語を、条件作文を中心に指導する。
- (ウ) かな漢字かな交じりの短く易しい文を、コンピュータに入力してみるようにする。
- (エ) 短く易しい電子メールやカードなどを直接書いてみるようにする。
- (オ) 短く易しい日本語を聞き、その中心的内容を要約して、文章で表現してみるようにする。

ウ. 言語材料

(1) 発音および文字

(ア) 発音は、現代日本語における標準語（共通語）の発音ができるようにする。

- (イ) かな表記は「現代かな遣い」に従って表記できるようにする。
- (ウ) 「基本語彙表」に提示された漢字のうち、学習用漢字は読み書きができるようにし、表記用漢字は読むことができるようにする。
- (エ) 韓国語のかな表記は、「国語(韓国語)のかな文字表記法」に従って表記できるようにする。

(2) 語彙

- (ア) 語彙教育は、単純に単語を暗記するのにとどまらず、文における用法を通して、その意味を把握できるようにする。
- (イ) 実物や絵、写真などの資料を通して、単語の意味を理解させる。

(3) 文法

- (ア) 【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」と【別表 II】に提示された「基本語彙表」に用いられた文法事項を参考に、自然に身につけられるようにする。
- (イ) 日本語教育で用いられる現代日本語文法を身につける。

(4) 意思疎通基本表現

(ア) 多様な学習リソースを利用して状況を設定することで、学習者が意思疎通基本表現を適切に用いることができるようにする。

(イ) 学習者が意思疎通基本表現を活用して、創意的に表現できるようにする。

エ. 文化

- (1) 韓国の文化と日本の文化の共通点と相違点を、学習者が自ら発見できるようにする。
- (2) 固定観念や知識中心の学習よりは、文化の多様性を発見できるようにする。
- (3) 学習者の能動的な参加のために、授業で扱われる文化と関連した内容を、個人別またはグループ別に調査して、発表するようにする。
- (4) 文化学習は理解度を高めるため、絵、写真、動画など視聴覚資料を積極的に活用する。
- (5) 文化的内容を説明する際、必要な場合には韓国語を用いるが、文化的内容のキーワードはなるべく日本語で認知させる。

4. 評価

ア. 評価指針

- (1) 二義的な事項よりは、基本的で核心的な事項を中心に評価する。
- (2) 評価目標に従い、分離評価^vと統合評価^vを実施するが、なるべく統合評価の比重を高めていく。
- (3) 学習した内容を中心に、聞く、話す、読む、書く、相互行為の能力を均等に評価する。
- (4) 断片的な知識よりは、円滑なコミュニケーションを行うのに助けとなる言語行動文化と日常生活文化を中心に評価する。
- (5) 学習者のコミュニケーション活動への参加度と態度などを評価する。
- (6) 評価の客観性を維持するために、評価基準を事前に示し、その基準に従って評価を行う。
- (7) 評価の結果は学習者の個別指導に活用し、次の段階の教授・学習計画に反映させる。

イ. 評価方法

以下に示された方法以外にも、教師が自律的に評価方法を考案し、適用することができる。

(1) 聞く

(ア) 短く易しい日本語を聞き、その真偽を判断する能力を評価する。

- (イ) 短く易しい日本語を聞き、文章の状況と話題を理解する能力を評価する。
- (ウ) 短く易しい日本語を聞き、その内容に従って行動に移せるかを評価する。
- (エ) 短く易しい日本語を聞き、キーワードに対する理解能力を評価する。

(2) 話す

- (ア) 学習した内容を中心に、質問や回答する能力を評価する。
- (イ) 絵や写真を見て、簡単に説明・描写する能力を評価する。
- (ウ) インタビューを積極的に導入して評価する。
- (エ) 学習した内容を、ロールプレイと場面練習などを通して表現する能力を評価する。

(3) 読む

- (ア) かなで書かれた短く易しい文章を読ませ、その能力を評価する。
- (イ) 学習用漢字と表記用漢字が含まれた短く易しい文章を読ませ、その能力を評価する。
- (ウ) 短く易しい対話文や文章を読み、大意を把握する能力を評価する。
- (エ) 短く易しい文章を読み、キーワードと主題語を見つける能力を評価する。

(4) 書く

- (ア) 書きとり、条件作文を中心に評価する。
- (イ) 学習者の経験を中心とした、簡単な作文の能力を評価する。
- (ウ) コンピュータを利用した日本語入力の能力を評価する。
- (エ) 多様なメディアを活用した情報検索活動の結果を評価する。

(5) 文化

- (ア) 自然な言語行動の遂行能力を中心に評価する。
- (イ) 日常生活文化は、個人やグループ別に調査した資料や発表した内容などを中心に評価する。
- (ウ) 伝統文化と大衆文化は、個人やグループ別に調査した資料や発表した内容などを中心に評価する。

10. 日本語 II

1. 目標

国際社会は世界化の進展にともない、隣接国家間の地域協力体制構築が速やかに拡散しつつある。こうした動きは地域内国家間の共生・共栄のための政治的、経済的協力だけでなく、民間レベルでの多様な協力と交流につながる事となる。こうした時代の流れにともない、韓国と日本との協力と交流はさらに拡大され、深められるであろう。しかし日韓両国は政治、経済、社会、文化など諸領域にわたって、相互理解の不足により解決しなければならない課題が少なくない。このような諸問題を円満に解決し、文化の異質性から来る諸般の誤解を解消して、東アジア地域の平和と繁栄に寄与するためには、文化間の相互理解と円滑なコミュニケーション能力が要求される。

「日本語 II」は、「日本語 I」で学習した意思疎通基本表現と文化理解を深化・育成する科目として、「日本語 I」との連係性を考慮し次のような一般目標を持つ。

第一に、日常生活で用いられる意思疎通基本表現を習得する。

第二に、意思疎通基本表現と、場面に応じた言語行動文化を理解し、相互行為を重視する日本語学習と、文化間の相互理解力を育てる。

第三に、情報活用の重要性を認識し、必要な情報を日本語で検索することができる能力を育てる。

第四に、日本語学習を通して日本の文化を理解すると同時に、韓国の文化を日本に紹介する役割も遂行できる能力を育てる。

第五に、周りにある日本語と関連した学習リソースを自ら活用し学習できる習慣を育て、自律性と問題解決能力を伸長させる。

「日本語 II」の具体的な目標は次のとおりである。

ア. 言語技能

言語の 4 技能を有機的に連係し、状況に応じて相互行為が可能となるようにする。

(1) 聞く

(ア) 日常生活で用いられるコミュニケーション機能と関連したことばを聞き、理解する。

(イ) 多少長い対話を、実際の場面と類似した環境で聞き、理解する。

(ウ) 日常生活と関連した多少長いことばを聞き、状況に合うように行動することができる。

(2) 話す

- (ア) 日本語の音調を状況に応じて適切に表現することができる。
- (イ) 意思疎通基本表現を活用して、多少長いことばを話すことができる。
- (ウ) 意思疎通基本表現を、言語行動文化に合わせて適切に話すことができる。

(3) 読む

- (ア) 基本語彙に用いられた漢字を、文の中で日本語で読むことができる。
- (イ) 日常生活と関連した多少長い文章を読み、理解する。
- (ウ) 日本文化と関連した多少長い文を読み、理解する。

(4) 書く

- (ア) 基本語彙に用いられた漢字を、正しい書き順で書くことができる。
- (イ) かな漢字かな交じりの多少長い文をコンピュータに入力することができる。
- (ウ) 日常生活と関連した多少長い文を書くことができる。

イ. 文化

- (1) 日本人の言語行動文化を理解する。
- (2) 日本人の日常生活文化を理解する。
- (3) 日本の重要な伝統文化および大衆文化を理解する。
- (4) 日韓両国の文化の共通点と相違点を理解し、文化の多様性を認識する。

ウ. 態度

- (1) コミュニケーション機能に対する学習の重要性を知り、体験を通じて自ら学習する態度を持つ。
- (2) コミュニケーション機能の遂行を成功させるため、相互理解の重要性を知り、自ら学習する態度を持つ。
- (3) 日本文化に対する理解の必要性を知り、文化と関連した学習資料に関心を持って自ら学習する態度を持つ。
- (4) 日韓文化交流の必要性を知り、積極的に交流しようとする態度を持つ。
- (5) 情報検索の必要性を知り、多様なメディアを活用する態度を持つ。
- (6) 日本語と関連した学習リソース活用の必要性を知り、自ら活用する態度を持つ。

2. 達成基準

ア. 言語的内容

(1) 言語技能

【別表 I】「意思疎通基本表現」を全般的に扱うが、言語の 4 技能を有機的に連係し、状況に応じて相互行為が可能となるよう、適切に用いる。

(ア) 聞く

- ①日常生活で用いられる縮約表現を聞き、理解する。
 - ―「～んだ、～てる、～じゃ、～って、～ちゃう、～きや、～とく」などの縮約表現を聞き、理解する。
- ②あいさつや紹介の表現と関連した多少長い対話を聞き、これに適切に反応する。
 - ―時刻や状況に応じた出会いや別れの多様なあいさつ表現を聞き、これに適切に反応する。
 - ―安否、外出、訪問、お祝いなど多様な状況におけるあいさつ表現を聞き、これに適切に反応する。
 - ―自己紹介、他人の紹介、家族の紹介時の儀礼的な表現を理解する。
- ③配慮および態度伝達の表現と関連した多少長い対話を聞き、これに適切に反応する。
 - ―感謝や謝罪、ほめや慰めなどの表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いた時、適切に反応する。
 - ―承諾や拒絶、断りや遺憾などの表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いた時、対話者の意図を理解し、適切に反応する。
- ④意向伝達の表現と関連した多少長い対話を聞き、これに適切に反応する。
 - ―希望や意志、意見提示などの表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いて対話者の意図を理解し、適切に反応する。
- ⑤情報要求や情報提供の表現と関連した多少長い対話を聞き、これに適切に反応する。
 - ―場所や選択、状態や事情などに関する具体的な情報要求を聞き、これに適切に反応する。
 - ―目的や趣向、能力や経験などに関する具体的な情報要求を聞き、これに適切に反応する。
 - ―案内や推測、伝言や状況説明などに関する詳細な情報提供を聞き、理解する。
- ⑥行為要求の表現と関連した多少長い対話を聞き、これに適切に反応する。
 - ―依頼や勧誘、指示や禁止などに関する表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いて対話者の意図を理解し、適切に反応する。
 - ―助言や提案、許可要求や警告などに関する表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いて対話者の意図を理解し、適切に反応する。
- ⑦対話進行の表現と関連した多少長い対話を聞き、これに適切に反応する。

—対話の進行において相手への声かけ、話題の転換などの表現が用いられる状況を認知し、このような表現を聞いて適切に反応する。

—あいづちや聞き返しなどの表現を聞き、適切に反応する。

⑧対話の相手の地位や親密度に応じた表現の違いを聞き、理解する。

—対話の相手との上下関係、親疎関係などに応じた表現の違いを聞き、理解する。

(イ) 話す

①非言語行動を状況に合うように用いる。

—表情や手ぶり、身ぶりなどの非言語行動を状況に合うように用いる。

②日常生活で用いられる縮約表現を話す。

—「～んだ、～てる、～じゃ、～って、～ちゃう、～きや、～とく」などの縮約表現を知り、対話の相手が理解できるように話す。

③あいさつや紹介の表現と関連した多少長い対話をする。

—時刻や状況に応じた出会いや別れの様々なあいさつ表現を、対話の相手に合わせて話す。

—安否、外出、訪問、お祝いなど様々な状況におけるあいさつ表現を対話の相手が理解できるように話す。

—自己紹介、他人の紹介、家族の紹介時の儀礼的な表現を、対話の相手が理解できるように話す。

④配慮および態度伝達の表現と関連した多少長い対話をする。

—感謝や謝罪、ほめや慰めなどの表現が用いられる状況を認知し、このような表現を対話の相手が理解できるように話す。

—承諾や拒絶、断りや遺憾などの表現が用いられる状況を認知し、このような表現を対話の相手が理解できるように話す。

⑤意向伝達の表現と関連した多少長い対話をする。

—希望や意志、意見提示などの表現が用いられる状況を認知し、このような表現を対話の相手が理解できるように話す。

⑥情報要求や情報提供の表現と関連した多少長い対話をする。

—場所や選択、状態や事情などに関する具体的な情報要求の表現を、対話の相手が理解できるように話す。

—目的や趣向、能力や経験などに関する具体的な情報要求の表現を、対話の相手が理解できるように話す。

—案内や推測、伝言や状況説明などに関する詳細な情報提供の表現を、対話の相手が理解できるように話す。

⑦行為要求の表現と関連した多少長い対話をする。

—依頼や勧誘、指示や禁止などに関する表現が用いられる状況を認知し、このような表現を対話の相手が理解できるように話す。

—助言や提案、許可要求や警告などに関する表現が用いられる状況を認知し、このような表現を対話の相手が理解できるように話す。

⑧対話進行の表現と関連した多少長い対話をする。

—対話の進行において相手への声かけ、話題の転換などの表現が用いられる状況を認知し、このような表現を対話の相手が理解できるように話す。

—あいづちや聞き返しなどの表現を、対話の相手が理解できるように話す。

⑨対話の相手の地位や親密度に応じた表現の違いを知り、対話の相手が理解できるように話す。

—対話の相手との上下関係、親疎関係などに応じた表現の違いを認知し、対話の相手が理解できるように適切に話す。

(ウ) 読む

①意思疎通基本表現と関連した多少長い文を読み、理解する。

—コミュニケーション機能が含まれた多少長い文を読み、その意味を理解する。

②意思疎通基本表現と関連した多少長い文章を読み、意味を把握する。

—コミュニケーション機能が含まれた多少長い文章や対話文を読み、その主題と意味を把握する。

③日常生活で接することのできる多様な学習リソースを活用して、多少長い文章を読み、理解する。

—招待状、メモ、ハガキ、標識板、メニュー、案内文、電子メールなど、多様な学習リソースを活用して、多少長い文章を読み、理解する。

④インターネットの多少長い文章を探して読み、情報を把握する。

—インターネットで多少長い文章を読み、求める情報を見つける。

⑤日本文化と関連した多少長い文章を読み、理解する。

—「文化的内容」と関連した多少長い文章を読み、その内容を理解する。

(エ) 書く

①学習用漢字を正しく書く。

—学習用漢字を書き順に留意して正しく書く。

—韓国で用いられる漢字と日本で用いられる漢字を区別して、正しく書く。

②意思疎通基本表現と関連した多少長い文を、状況に合うように書く。

—コミュニケーション機能が含まれた多少長い文を、状況に合うように正しく書く。

③日常生活で用いる多様な文章を書く。

ーメモ、ハガキ、手紙、案内文、日記など、日常生活でよく接する多様な文章を作成する。

④かな漢字かな交じりの多少長い日本語を、コンピュータに入力する。

ー日本語のコンピュータ入力方法に従い、かな漢字かな交じりの多少長い日本語をコンピュータに入力する。

⑤多少長い電子メールを作成する。

ーインターネットや通信機器に、多少長いメッセージや電子メールなどを作成する。

⑥意思疎通基本表現と関連した多少長い日本語を韓国語に、韓国語を日本語に正しく翻訳する。

(2) 言語材料

(ア) 発音

現代日本語の標準語（共通語）発音を基本とする。

(イ) 文字

①用いる文字はひらがなとかたかな、漢字を基本とする。

②かなの表記は「現代かな遣い」に従う。

③漢字は常用漢字内で用いることができ、書くことを勧める学習用漢字と読むことを勧める表記用漢字は「基本語彙表」に提示した漢字とする。ただし、人名や地名などの固有名詞に用いる漢字は、例外として扱う。

④韓国語のかな表記は、「国語(韓国語)のかな文字表記法」に従う。ただし、慣用的に用いるものは許容することができる。

(ウ) 語彙

【別表 II】に示された基本語彙を中心に、800 語程度を用いる。

(エ) 文法

①【別表 II】に示された「基本語彙表」と、【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」に用いられた文法事項を参考とする。

②日本語教育で用いられる現代日本語文法に従う。

(オ) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は、コミュニケーション能力を効率的に養えるようにするものであるが、【別表 I】に提示された「意思疎通基本表現」を積極的に活用する。

①あいさつ：出会い、別れ、安否、外出、帰宅、訪問、食事、年末、新年、お祝

い

- ②紹介：自己紹介、家族の紹介、他人の紹介
- ③配慮および態度の伝達：感謝、謝罪、ほめ、苦衷・不平、激励、慰め、承諾・同意、拒絶・反対、断り、謙遜、遺憾
- ④意向の伝達：希望、意志、意見の提示
- ⑤情報の要求：存在、場所、時間・とき、選択、比較、理由、方法、状態・事情、目的、趣向、能力・可能、経験、確認
- ⑥情報の提供：案内、推測、伝言、状況説明
- ⑦行為の要求：依頼、指示、禁止、勧誘、助言・提案、許可の要求、警告
- ⑧対話の進行：声かけ、ためらい、話題転換、あいづち、聞き返し

イ. 文化的内容

- (1) コミュニケーション機能と関連した、日本人の言語行動文化および非言語行動文化を理解し、コミュニケーションの状況で文化的内容に合うように表現する。
 - (ア) 言語行動に関する内容：表現的特性、あいづちなど
 - (イ) 非言語行動に関する内容：身ぶり、手ぶりなど

- (2) 日本人の日常生活文化を理解し、コミュニケーションの状況で文化的内容に合うように表現する。
 - (ア) 家庭生活に関する内容：あいさつ、訪問時のマナー、家庭内の生活文化など。
 - (イ) 学校生活に関する内容：サークル活動など
 - (ウ) 社会生活に関する内容：交友関係、季節のあいさつなど
 - (エ) 交通および通信メディアに関する内容：交通事情、通信事情など
 - (オ) 衣食住に関する内容：衣服の種類、食べ物の種類、住宅事情など
 - (カ) 環境に関する内容：ゴミの分別収集、リサイクルなど
 - (キ) 余暇の利用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
 - (ク) マスメディアに関する内容：新聞、放送など
 - (ケ) 危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など

- (3) 日本人の伝統文化と大衆文化を理解し、コミュニケーションの状況で文化的内容に合うように表現する。
 - (ア) 地域文化に関する内容：主な地名、観光名所、庭園など
 - (イ) 年中行事に関する内容：「まつり、おしょうがつ、ひなまつり、おぼん、しちごさん」など
 - (ウ) 伝統芸術に関する内容：「のう、いけばな」など
 - (エ) 遊びの文化に関する内容：「はなみ、はなび」など

(オ) 大衆文化に関する内容：マンガ、アニメーション、映画、ドラマ、ゲーム、音楽など

(カ) 通過儀礼に関する内容：入学、結婚など

(4) 次の事項に留意して、文化的内容を構成する。

(ア) 内容は実用的なものとするが、最近の資料を基準として構成する。

(イ) 学習者の興味、必要性、知的水準などを考慮して、学習意欲を高めることのできる内容とする。

(ウ) 言語表現と関連した素材の領域は、【別表 I】「意思疎通基本表現」内の項目を参考に、この表現が適切な脈絡の中で活用されるよう構成する。このように、特定の素材領域と関連した適切な表現方式が自然に習得されるようにする。

(エ) 文化内容を説明する際、必要な場合には韓国語を用いることができる。

(オ) 日本の日常生活および社会文化を正しく理解し、これを韓国の文化と比較して共通点および違いを認識するよう、内容を構成する。

3. 教授・学習方法

ア. 一般指針

(1) 授業はなるべく日本語で進めるようにする。

(2) 正確さよりは、流暢さを養うことに重点を置いた学習となるようにする。

(3) 言語の構造を中心とした学習よりは、コミュニケーション機能を習得できるよう、教授・学習の計画を立てる。

(4) 学習内容の理解と適用が容易となるよう、授業を段階別に構成する。

(5) 学習者の知的発達を考慮して、螺旋型に学習内容を構成する。

(6) 学習者が学習活動に積極的に参加できる協同学習と体験学習が成り立つよう、構成する。

(7) 学習者主導型の自律学習が活性化されるよう、構成する。

(8) 学習動機を誘発できるよう、学習者の関心と要求を反映した発見学習を活用する。

(9) 教授・学習に助けとなる多様な情報通信技術 (ICT) 関連メディアを活用する。

(10) 学習者のレベルに合うよう、教科書の内容を再構成して用いる。

(11) 学習者のレベルと個性を考慮した個別学習を活用するようにする。

(12) 学習者の興味を高めるため、クイズ、ゲーム、歌など多様な学習リソースを活用する。

(13) 学習意欲を阻害しうる、その場における誤りの修正は避けるようにする。

イ. 言語技能

言語の 4 技能を有機的に関係し、状況に応じて相互行為が可能となるよう、教授・学習する。

(1) 聞く

- (ア) 現場の雑音が含まれた、自然な日本語を聞くようにする。
- (イ) 聞く学習に助けとなる写真や映像資料などを、効果的に活用する。
- (ウ) 多少長い文を聞き、それを行動に移してみせる。
- (エ) 自然な日本語を身につけられるよう、ネイティブスピーカーの発音を聞かせる。

(2) 話す

- (ア) 言語行動文化に合うロールプレイ、場面練習、ゲームなどを活用する。
- (イ) 学習者の学習参加の機会を増やせるよう計画する。
- (ウ) グループ活動を中心に、学習者の対話量を増やすようにする。
- (エ) 相手との関係、対話の内容、対話の展開、言語行動文化に合わせて表現できるよう、段階的に学習させる。
- (オ) 自然な日本語を身につけられるよう、ネイティブスピーカーの発音について話させる。

(3) 読む

- (ア) 日本語をなるべく速いスピードで読むことができるようにする。
- (イ) 日常生活でよく接する標識、短く易しい電子メール、カードなど、様々な学習リソースを活用するようにする。
- (ウ) かな漢字かな交じりの多少長い文章を読み、その中心的な内容を要約して、発表してみるようにする。
- (エ) インターネットの多少長い文章を探して読み、情報を把握する。
- (オ) 自然な日本語を身につけられるよう、ネイティブスピーカーの発音について読ませる。

(4) 書く

- (ア) 文字の学習は、文を中心とした学習となるようにする。
- (イ) 短く易しい日本語を、自由作文を中心に指導する。
- (ウ) かな漢字かな交じりの多少長い文を、コンピュータに入力してみるようにする。
- (エ) 多少長い電子メールやカードなどを直接書いてみるようにする。
- (オ) 多少長い日本語を聞き、その中心的な内容を要約して、文章で発表してみるようにする。

ウ. 言語材料

(1) 発音および文字

- (ア) 発音は、現代日本語における標準語（共通語）の発音ができるようにする。
- (イ) かな表記は「現代かな遣い」に従って表記できるようにする。
- (ウ) 「基本語彙表」に提示された漢字のうち、学習用漢字は読み書きができるようにし、表記用漢字は読むことができるようにする。
- (エ) 韓国語のかな表記は、「国語(韓国語)のかな文字表記法」に従って表記できるようにする。

(2) 語彙

- (ア) 語彙は、単純に単語を暗記するのにとどまらず、文における用法を通して、その意味を把握できるようにする。
- (イ) 実物や絵、写真などの資料を通して、単語の意味を理解させる。

(3) 文法

- (ア) 【別表 II】に提示された「基本語彙表」と【別表 I】に示された「意思疎通基本表現」に用いられた文法事項を参考に、自然に身につけられるようにする。
- (イ) 日本語教育で用いられる現代日本語文法を身につける。

(4) 意思疎通基本表現

- (ア) 多様な学習リソースを利用して状況を設定することで、学習者が意思疎通基本表現を適切に用いることができるようにする。
- (イ) 学習者が意思疎通基本表現を活用して、創意的に表現できるようにする。

エ. 文化

- (1) 韓国の文化と日本の文化の共通点と違いを、学習者が自ら発見できるようにする。
- (2) 固定観念や知識中心の学習よりは、文化の多様性と個別性を発見できるようにする。
- (3) 学習者の能動的な参加のために、授業で扱われる文化と関連した内容を、個人別またはグループ別に調査して、発表するようにする。
- (4) 文化学習は理解度を高めるため、絵、写真、動画など視聴覚資料を積極的に活用する。

4. 評価

ア. 評価指針

- (1) 二義的な事項よりは、基本的で核心的な事項を中心に評価する。
- (2) 評価目標に従い、分離評価と統合評価を実施するが、なるべく統合評価の比重を高めていく。
- (3) 学習した内容を中心に、聞く、話す、読む、書く、相互行為の能力を均等に評価する。
- (4) 断片的な知識よりは、円滑なコミュニケーションを行うのに助けとなる言語行動文化と日常生活文化を中心に評価する。
- (5) 学習者のコミュニケーション活動への参加度と態度などを評価する。
- (6) 評価の客観性を維持するために、評価基準を事前に示し、その基準に従って評価を行う。
- (7) 評価の結果は学習者の個別指導に活用し、次の段階の教授・学習計画に反映させる。

イ. 評価方法

以下に示された方法以外にも、教師が自律的に評価方法を考案し、適用することができる。

- (1) 聞く
 - (ア) 多少長い日本語を聞き、その真偽を判断する能力を評価する。
 - (イ) 多少長い日本語を聞き、文章の状況と話題を理解する能力を評価する。
 - (ウ) 多少長い日本語を聞き、その内容に従って行動に移せるかを評価する。
 - (エ) 多少長い日本語を聞き、キーワードに対する理解能力を評価する。
- (2) 話す
 - (ア) 学習した内容を中心に、質問や回答する能力を評価する。
 - (イ) 絵や写真を見て、簡単に説明・描写する能力を評価する。
 - (ウ) インタビューを積極的に導入して評価する。
 - (エ) 学習した内容を、ロールプレイと場面練習などを通して表現する能力を評価する。
- (3) 読む
 - (ア) かなで書かれた多少長い文章を読ませ、その能力を評価する。
 - (イ) 学習用漢字と表記用漢字が含まれた多少長い文章を読ませ、その能力を評価する。
 - (ウ) 多少長い対話文や文章の大意を把握する能力を評価する。
 - (エ) 多少長い文章を読み、キーワードと主題語を見つける能力を評価する。
- (4) 書く

- (ア) 自由作文を中心に評価する。
- (イ) 学習者の経験を中心とした作文の能力を評価する。
- (ウ) コンピュータを利用した日本語入力の能力を評価する。
- (エ) 多様なメディアを活用した情報検索活動の結果を評価する。

(5) 文化

- (ア) 自然な言語行動の遂行能力を中心に評価する。
- (イ) 日常生活文化は、個人やグループ別に調査した資料や発表した内容などを中心に評価する。
- (ウ) 伝統文化と大衆文化は、個人やグループ別に調査した資料や発表した内容などを中心に評価する。